亀田ニュース

2019
No.921
9月1日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929　●TEL04(7092)2211㈹　●発行責任者 亀田隆明　●作成 広報企画室　●毎月1日・15日発行

【救急医療週間特集】

2018年度 救命救急センター診療実績 受診者 27,970人

（救急車4,242人，ヘリ搬送85件）

9月9日は「救急の日」，9月8日～14日は「救急医療週間」です。今号では恒例の「救急医療週間特集」として，2018年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の当院救命救急センターの診療実績をご報告いたします。

＊＊＊＊＊＊＊

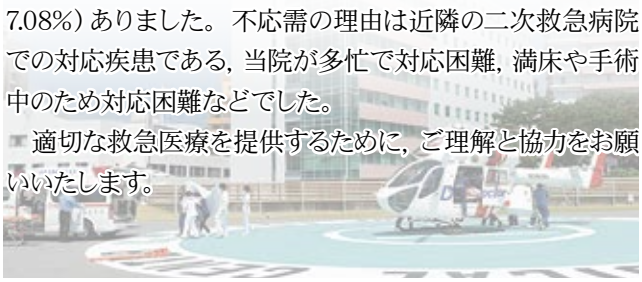
救命救急センター長
不動寺 純明

亀田総合病院 救命救急センター（亀田ER）は24時間，365日，質の高い救急医療を提供すべく日々努力しております。2018年度の救命救急センター総受診者数は27,970人(2017年度は28,031人)でした。そのうち救急車で搬送された患者数は4,242人（2017年度は4,314人），ドクターヘリおよびその他のヘリ搬送は85件（2017年度は109件）でした。ヘリ搬送や救急車搬送された患者および自力来院患者でも重症者はすべて救急医療を専門とする救急医が対応します。現在亀田ERでは救命救急科（専従医10名，研修医3～4名）が対応しています。また，小児患者に対しては小児科医が対応しています。

みなさまは24時間救急外来を受診でき，救急車を呼ぶこともできます。しかし，すべての方が「私は救急だから急いで診てくれ」と言ったらどうなるでしょう。救急車を優先して診療すれば急いで診療を受けたい人はすべて救急車を呼んでしまいます。これでは本当に優先して診療しなければならない患者さまの診療が遅れ，不幸な結果になります。そこで，適切な救急医療を提供するために「トリアージ」があります。「トリアージ」とは看護師や救急救命士が診療の優先順位を判断して，診療の順番を決めたり，搬送する病院を決定することです。状況によっては，他に優先して診療する必要のある患者さまがいれば，救急車搬送の患者さまを待たせることもあります。

当院にかかりつけの患者さまはできるだけ対応するようには努力しておりますが，これだけ多くの患者さまが集まってしまうため，対応できない救急要請も323件（不応需率7.08%）ありました。不応需の理由は近隣の二次救急病院での対応疾患である，当院が多忙で対応困難，満床や手術中のため対応困難などでした。

適切な救急医療を提供するために，ご理解と協力をお願いいたします。



市民フォーラム
テーマ:「インプラントのホント」

10月12日(土)午後1時～午後3時半，亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールを会場に，デンタルインプラント（人工歯根）をテーマに市民フォーラムを開催いたします。

当院歯科口腔外科の松田博之歯科医師が，「インプラントのホント」と題し，歯を失った際の治療選択肢として注目される「デンタルインプラント」の正しい適応と治療法をご紹介いたします。興味をお持ちの方は，この機会にぜひご参加ください。（定員80名，参加費無料）

なお，人数把握のため，受講を希望される方は10月5日(土)までにFAXまたは電話にて下記までお申込みください。

【お問い合わせ・申込先】
亀田総合病院 カスタマーリレーション室
TEL：04-7099-1230 / FAX：04-7099-1231

bayfm「MEDICAL UPDATES」

春原佑紀さんがラジオパーソナリティーを務めるベイエフエムの午後のワイド番組『it!!(イット)』では，毎週火曜日午後3時から，当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナー(約10分)が好評放送中です。

9月は佐々木真弓訪問看護認定看護師が出演いたします。ぜひ，お聴きください。

便失禁に関する無料電話相談

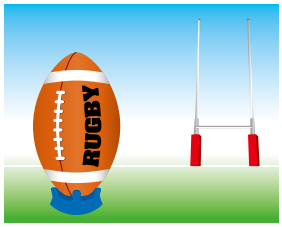
便失禁でお悩みの方に，治療法を含む適切な情報を提供する目的で，毎月，専門医による無料電話相談を下記のとおり実施しています。

■日時：9月11日(水)・25日(水) 午後2時～4時
■電話番号：04-7099-1206（直通）
■対応者：角田明良医師（9月11日）
　　高橋知子医師（9月25日）

第12話　ラグビーワールドカップ2019日本大会と東京2020オリンピック・パラリンピック

スポーツ医学科の連載も今回が最終稿になりました。最終稿では，日本で開催される超ビックなスポーツイベントの紹介と，スポーツ医学科スタッフがこれらのイベントにどのように関わるかを紹介させていただきたいと思います。

ラグビーワールドカップ2019日本大会



ラグビーワールドカップは４年に１度行われる「ラグビー世界一」を決める大会です。９月20日，「ラグビーワールドカップ2019日本大会」がいよいよ開幕します。オリンピック・パラリンピック，サッカーワールドカップに次ぐ，世界三大スポーツイベントの一つに数えられ，第１回大会は1987年に開催されました。今回は第９回で，アジアで初の開催となります。日本代表（愛称ブレイブブロッサム）は，前々回大会までは通算１勝21負２分という成績でありました。しかし前回のイングランド大会で，優勝候補の南アフリカを撃破し，スポーツ史上最大の番狂わせとして世界に報道されました。今大会は地元日本での開催であり，日本代表ブレイブブロッサムの活躍への期待は高まる一方です。

当院にもラグビーチーム（愛称タートルヘッズ）が存在し，ビーチや体育館にて練習しております。私（服部）は2017年の女子ラグビーワールドカップ大会にチームドクターとして帯同しました。今大会では，開幕戦の日本 vs ロシア，準々決勝，準決勝のマッチドクターを担当します。マッチドクターと聞くと馴染みのない言葉かもしれません。ラグビーは激しいコンタクトスポーツのため脳しんとうや出血など，途中で退場せざるを得ない外傷が発生します。それらをみて「退場すべき」か「プレー続行可能」かを判断するのがマッチドクターの役割です。ワールドカップという大舞台で，命がけでプレーする選手に対して「退場」「続行」を判定するのは重責です。ただ，やることはスポーツ医として日頃診察室で行っていることと同じです。日々の診療の中で，怪我をして診察室に来た選手に，続行か中断かという判断（診断）を正確に行うよう心掛けております。この大舞台でも正確な判断ができると確信しております。

東京2020オリンピック・パラリンピック

オリンピックもラグビーワールドカップと同様に４年に１度行われるスポーツの祭典です。歴史は古く2800年前に起源を辿ることができます。パラリンピックは，障がいのあるアスリートが出場するスポーツの祭典です。こちらも４年に１度，オリンピック競技の終了後に同じ場所にて開催されます。オリンピックの精神に「スポーツを通して心身を向上させ，文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え，友情，連帯感，フェアプレーの精神をもって，平和でよりよい世界の実現に貢献すること」とあります。またパラリンピックの理想は「I'mPOSSIBLE」という言葉で表現されます。不可能（Impossible）だと思えたことも，考えて工夫すれば何でもできるようになる（I'mpossible）という意味です。みなさんご存知のとおり，来年７月22日～９月６日の期間，東京にて夏季オリンピック・パラリンピックが開催されます。背景にあるオリンピック・パラリンピックの理想に留意しながら，アスリートの活躍を応援していただきたいと思います。

スポーツ医学科の大内医師・山田医師・服部はオリンピック・パラリンピック選手村内のポリクリニック（医療施設）にて勤務する予定となっております。ポリクリニックは，亀田クリニックが選手村に設置されるようなもので，整形外科のみならず，内科，救急，歯科などの科が設置され，超音波検査，レントゲンなどの画像診断も可能です。またスポーツ医学科のPA（フィジシャンアシスタント）やリハビリのスタッフも，IOC（国際オリンピック委員会）が認定する資格（Diploma）を２年間かけて取得し，やはり選手村内にて活躍する予定となっております。という訳で来年の７月～８月の期間はスタッフが手薄になりご迷惑をお掛けいたします。ただこの一生に一度のイベントに関わるのは我々の本望ですのでどうかご容赦ください。

スポーツ医学科の連載も今回で終了となります。半年間ありがとうございました。

医師紹介　齋藤（さいとう）　浩史（ひろし）医師

［①担当科目
②診療における得意分野
③趣　味
④ひと言］

①脳神経外科（医長）
②脳卒中の外科，脳血管内治療
③硬式テニス
④よろしくお願いします

Kameda Medical Center

亀田ホームページ　http://www.kameda.com